

福岡よか未来プロジェクト
令和5年度採択



福岡未来創造
プラットフォーム

レベル別日本語書籍の普及と活用促進を目指した
多読会の開催
プロジェクト活動報告

1.着想に至った経緯

- 福岡市内には本年5月時点で41,720人の外国籍の方々が暮らしている。
＝約50人に一人以上が外国籍（約2.5%）
- 公共の図書館などでは日本語学習者のための読書環境が**まだあまり整備されていない**。
- 日本語学習者用に開発されたレベル別日本語書籍の存在も**まだあまり知られていない**。



国籍によらず、どの住民でも日本語で読書が楽しめる環境を作りたい。



NPO多言語多読監修『レベル別日本語多読ライブラリーよむよむ文庫』アスク出版



NPO多言語多読監修『にほんご多読ボックス』大修館書店



坂野永理他『初級日本語よみものげんき多読ボックス』Box1～Box4, The Japan Times

参照：

福岡市「登録人口：住民基本台帳（日本人・外国人）男女別・年齢別人口（毎月公表[前月末現在]）」https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/jinkou/tourokujinkou/TourokuJinko_kubetsu.html 2023年7月10日閲覧
にほんご多読「NPO多言語多読監修の学習者向けレベル別読よみもの」<https://tadoku.org/japanese/graded-readers/> 2024年2月1日閲覧
The Japan Times「初級日本語よみものげんき多読ボックス」<https://bookclub.japantimes.co.jp/jp/search/s18573.html> 2024年2月1日閲覧



2. 目的

- 当事業では、日本語学習中の外国人住民と日本語ボランティアを対象に日本語の読書会（多読会）を開催し、日本語学習者向けに開発されたレベル別書籍を紹介し、この活用方法を知ってもらう。
- 読書会に参加する外国人には、各自の日本語のレベルに合った読み物を時間内にできるだけ多く読んでもらい、日本語で考えたり想像したりする能力を養い、達成感を味わう機会を提供する。
- 日本語ボランティアには、学習者と同じ読み物を読むことで、学習者に伝わりやすい日本語の理解を促し、外国人への日本語支援におけるこの書籍の活用を検討してもらう。
- 外国人が好きな時間に日本語で読書が楽しめるよう、市内の公共の図書館に、レベル別日本語書籍を購入してもらえるよう働きかけを行う。

「多読」とは

- 辞書をできるだけ使わずに多くの本を楽しみながら読むことで日本語を身に付けていく読書活動である。
- 本に書かれていることを全て理解することより、本を読むことを楽しむこと、そして、挿絵や写真から内容を推測する力を養うことに重点がおかれる。



当事業では、この多読の手法を用い、日本語教室が集中する市内4箇所日本語多読会を開催する。

3.スケジュール

年 月	内容
2023年10月	・レベル別日本語多読書籍の購入 ・第1回打合せ、会場決め(オンライン) ・会場の予約 ・第2回打ち合わせ(対面) ・第3回打ち合わせ(対面) ・第1回日本語読書会@福岡市NPO・ボランティアセンター あすみん
11月	・福岡市総合図書館にレベル別日本語書籍の購入の相談 ・第2回日本語読書会@福岡市立早良市民センター
12月	・第3回日本語読書会@福岡市国際会館4階国際交流フロア
2024年 1月	・第4回日本語読書会(最終回)@公益財団法人福岡県国際交流センターアクロス3階こくさいひろば ・第4回打ち合わせ(対面)
2月	・＜事業に関連した活動＞令和5年度福岡県学校図書館協議会小・中・義務教育学校及び特別支援学校司書合同研修会でのレベル別日本語書籍の展示と紹介 ・収支決算書および成果報告書の作成と提出

イベントのタイトルは「日本語読書会」にしよう。「日本語多読会」はまだあまり知られていないから、これをタイトルにすると人が集まらないかもしれない。



第1回日本語読書会は福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん様と、第4回日本語読書会は公益財団法人福岡県国際交流センター様との共催により、実施しました。

学習者向けと、日本語教員および日本語ボランティア向けの2種のちらしを作成して、広報活動を行いました。



プロジェクト名：レベル別日本語書籍の普及と活用促進を目指した多読会の開催



福岡未来創造
プラットフォーム

4.日本語読書会（多読会）の様子

わくわくドキドキの
第1回日本語読書会



読書会の冒頭では、
メンバーによる絵本の読
み聞かせを行いました。



第1回日本語読書会

多読に集中する
参加者たち。



第2回日本語読書会



助成金でたくさんの
書籍を購入するこ
とができました。



第3回日本語読書会



多くの図書館司書
の方々にレベル別書籍を
手にとって読んで頂く
ことができました。

多読の後は、読んでよ
かった本について紹介し
合いました。



第4回日本語読書会



令和5年度福岡県学校図書館協議会小・中・義務教育学校及び特
別支援学校司書合同研修会でのレベル別日本語書籍の展示と紹介



5.成果と課題

成果

- 福岡市やその近郊に暮らす日本語学習者と日本語教員およびボランティアに日本語レベル別書籍を紹介し手に取って読む機会を提供することができた。参加した学習者からは「日本語で読める本があることを知らなかった」「また参加したい」という感想が、日本語教員からは「各レベルで読める本を探すのが大変だったので、これは利用しない手はないと思った」などの感想が寄せられた。
- 当事業が契機となり、令和5年度福岡県学校図書館協議会小・中・義務教育学校及び特別支援学校司書合同研修会でレベル別日本語書籍を展示し100名を超える図書館司書の方々にこの書籍を紹介する機会を得た。参加した司書の方々からは、「こんな資料があることを知らなかった」「外国人の子供が増えてきたが、資料がなくて困っていたので購入を検討したい」など、様々な反響があった。福岡県内の小中学校および特別支援学校には現在多くの外国籍の児童と生徒が在学しているが（2022年5月1日時点で2,026人）、図書館司書らがこの書籍について知り、関心を高めたことで、今後外国につながる子供たちが学校の図書室でレベル別日本語書籍を気軽に読み、日本語で読書を楽しめるようになる可能性が広がった。

課題

- レベル別日本語書籍がまだあまり知られていないことや日本語学習者に向けた広報の難しさから、特に学習者の参加者を予定していたよりも集めることができなかった。

6.今後の予定

- 当事業で得られた知見や教育効果などについて日本語教育関連の学会や研究会で報告をする。
- 当事業の活動範囲を福岡市から福岡県全域に広げ、県内の日本語教室や学校、公共施設で、レベル別日本語書籍を用いた日本語読書会を展開していく。また、天神などの利便性のよい会場で休日に定期的に日本語読書会を開催し学習者が読書に親しめる機会を増やすとともに、読書会が日本語学習者の居場所にもなるよう運営方法に工夫を加えていく。
- 県内にある公共図書館の司書の方々にレベル別日本語書籍を紹介し、この読み物が日本語学習者が読書を楽しむうえで最適であることを説明していく。